

令和4年度郷土コーナー企画展

「明治の人が見た奄美」

～笹森 儀助～

期 間：令和5年2月18日(土)～3月5日(日)

場 所：県立奄美図書館 2階郷土コーナー（入場無料）

お問い合わせ：県立奄美図書館 52-0244まで

笹森 儀助（ささもり ぎすけ）

（1845-1915）

陸奥国弘前在府町（現・青森県弘前市在府町）弘前藩士・笹森重吉の子として生まれる。

日本の探検家、政治家、実業家。

1893年（明治26年）、政府から国内精糖振興のため、南島の糖業拡大の可能性を探るよう依頼された。同年、琉球諸島を中心とした南西諸島の探検へ出発する。

沖縄の帰路の途中で、与論島・沖永良部島・徳之島を経由し、奄美大島に立ち寄る。そこで、黒糖の売買権を鹿児島島の商人が独占しており、島民が困窮していることを知る。

1894年（明治27年）、南西諸島の探検をまとめた「南嶋探検」を発行。群島民の貧困問題に関して明治政府を糾弾した。

同年、南嶋探検の功績が認められ、内務大臣 井上馨の勧めもあり、奄美大島の島司に就任する。糖業の改良、教育振興、伝染病対策など常に島民の側に立ち、島民に尽くした。

1898年（明治31年）まで約4年間、島司を務めた。

著書「南嶋探検」は、柳田國男など後の民俗学者に大きな影響を与えた。

〔主な参考文献〕

「笹森儀助の軌跡 辺界からの告発」東 喜望 他



※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事・催し等が変更・中止になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※ また、参加にあたって配慮や支援が必要な場合は、お気軽に御相談ください。